

特任教授 **会田 薫子** AITA, Kaoruko

1. 略歴

1984年3月 成蹊大学文学部英米文学科 卒業
1987年6月 Contemporary British Society Course, School of Oriental and African Studies, University of London 修了
1988年4月 株式会社メディカル・トリビューン 記者
1992年9月 The Japan Times 記者
2000年6月 Medical Ethics Fellowship Program, Harvard Medical School, Harvard University 修了
(フルブライト留学)
2005年3月 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻修士課程修了
2008年3月 東京大学大学院医学系研究科健康科学・看護学専攻博士課程修了
博士(保健学)取得 (東京大学大学院医学系研究科)
2008年4月 東京大学大学院人文社会系研究科グローバルCOE「死生学の展開と組織化」特任研究員
2012年4月 東京大学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センター上廣死生学・応用倫理講座
特任准教授
2017年4月 同 特任教授

2. 主な研究活動

a 専門分野

臨床倫理学、臨床死生学、医療社会学

b 研究課題

エンドオブライフ・ケアの改善

医療技術が進展するなか、超高齢社会となった現代の日本におけるエンドオブライフ・ケア(人生の最終段階における医療とケア)のあるべき姿を模索し、研究知見をうみだし、社会還元し、現状の改善・充実を目指す。

臨床倫理の普及と啓発

日本社会における家族関係や意思決定に関わるコミュニケーションのあり方などの社会的文化的な特徴および法・制度と国・医学会のガイドライン等を踏まえ、臨床現場における一人ひとりの患者/利用者に関わる倫理的諸問題に対し、よりよく応答することが可能な方法論を探り、臨床現場の医療・介護従事者との協働・対話によって、現実の症例の倫理的問題について幅広く検討を深め、現場における実践の知へつなぐ。

臨床死生学の試み

死生学の重要な一領域である臨床死生学を、「一人ひとりが最期までより良く生きることを社会のなかで考える学問」と捉え、臨床現場における死生をめぐる諸課題の理解・考察を深め、一般への浸透を図る。

c 概要と自己評価

エンドオブライフ・ケアの改善について

超高齢社会におけるエンドオブライフ・ケアに関して最も一般的かつ依然として深刻な問題は、人生の最終段階に至り摂食嚥下困難となった高齢者に対する人工的水分・栄養補給法(AHN:artificial hydration and nutrition)の導入・差し控え・終了に関する諸問題である。これは日本の高齢者医療およびケアにおける長年の懸案であった。先行研究が非常に希少であったこの分野において、会田は数々の実証研究を実施した。その成果は日本老年医学会「高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン—人工的水分・栄養補給の導入を中心として」の策定につながった。これが同学会ガイドラインとして公表された後は、学会内外において、その趣旨の普及とそれを踏まえた現場での臨床実践の拡大に努めた。数多くの学術集会および講演等において、医療・介護従事者だけでなく一般市民への浸透を目指して継続的に活動した。

また、この課題を本人と家族の側から捉え、本人と家族が医療・介護従事者の助言を得ながら最善の選択に至ることを支援するため作成した『高齢者ケアと人工栄養を考える—本人・家族のための意思決定プロセスノート』の普及に努めた。

さらに、この成果を踏まえて、慢性腎臓病の専門医療者との協働によって、『高齢者ケアと透析療法を考える—本人・家族の意思決定プロセスノート』を開発し、刊行後は現場の医療者とともに、日本腎不全看護学会学術集会などで普及啓発のための活動を行った。

会田らの研究班は同ノートに保存的腎臓療法(CKM:conservative kidney management)を盛り込んでいる。近年、CKMは、西洋諸国からの研究報告では、超高齢社会の療法選択において医学的に標準的な選択肢となるべきとされ

ているが、日本で作成された意思決定支援ツールやガイドにおいて CKM が選択肢として明示されたのは非常に稀なことである。近未来の日本において、CKM は標準的な選択肢となるとみられているが、現状の改革を要するため、徐々に理解者を増やすためにも一層の研究活動を要する。

いずれの意思決定支援ノートも、本人と家族と医療・介護従事者が本人のために一緒に考え共同意思決定 (SDM:shared decision-making) に至ることを支援するためのツールであり、日本の医療界で、現代、注目度の高い課題である ACP (advance care planning) に直接関係する研究開発である。

関連して、平成 30～令和元年度は、ACP の一層の文献研究とそれをもとに学術集会での報告を重ね、本学大学院人文社会系研究科死生学・応用倫理センターが主催する《医療・介護従事者のための死生学》セミナーや日本各地での講演活動を通して、研究知見を社会還元した。

また、ACP の普及啓発に関して、日本老年医学会は令和元年度に「ACP 推進に関する提言」を発表したが、会田はその取りまとめを行った。同時に、ACP の実践法に関して医療・介護関係者により良く理解して頂くために、同学会が計画した「ACP 事例集」および解説編の作成もすすめた。

さらに、10 年余の研究課題の 1 つである frailty に関する研究知見の整理と発信にも務め、高齢者の人生の最終段階における過少医療および過剰医療への対策としての考え方を示した。frailty に関しては、国内の老年学関係者はフレイルという名称にておもに介護予防に注目しているが、会田は frailty が進行した高齢者における適切な医療のあり方について、医療関係者を対象とするセミナーや学術集会等で問題提起した。会田の講演を契機に、救急・集中治療の現場で実証研究を進める研究グループもみられた。また、上述の ACP のプロセスに frailty の評価を組み込むことの重要性に関して医療・介護従事者の理解を求める論文や講演活動も行い、これも臨床現場での実証研究につながっている。

これらの研究成果は、総務省消防庁「救急業務のあり方に関する検討会」に参画した際にも活かされた。令和元年度に発表された同検討会の報告書では、老化が進んだ高齢者が心肺停止した際の救急搬送の適正化に関して、frailty 評価の重要性が言及された。

また、ACP を含め意思決定支援に関連した課題が令和元年度に採択された AMED (日本医療研究開発機構: Japan Agency for Medical Research and Development) 長寿科研の「非がん疾患の緩和ケア」の 2 課題 (腎不全と呼吸不全) において、会田の分担課題とされている。これらの課題の研究知見は数年後に政策に活かされる見込みである。

上述の研究課題は、日本老年医学会の 5 年計画 (平成 30 年度～令和 4 年度) にも活かされている。会田はこの 5 年計画策定委員の一人として、非がん疾患の緩和ケアと ACP の推進および死生学教育の推進を盛り込んだ。近未来に同学会の範囲に限らず、日本の医学界の方針および国の政策につなぐことを目指して、今後も研究および実践活動を行っていく。

また、高齢者に限らない研究課題として、実証研究をもとに脳死に関する理解を日本の文化的側面も踏まえて深めた。脳死に関する諸問題への対応について専門医療者とともに検討し、社会的に構成される死の概念について日本の臨床現場の実態に基づいて考察し、救急・集中治療現場での患者・家族対応に関する実践知につないだ。特に、日本小児救急医学会が実践家としての医療者を対象に行う脳死セミナーで、継続してこの課題に関する教育講演の機会を得ることによって、研究知見の臨床現場での活用を実現化した。

これらの研究・実践活動によって、進展した医療技術が汎用される現代の日本において、本人らしい人生の集大成を支援するためのエンドオブライフ・ケアの研究と、その知見にもとづく教育啓発活動を実施することができたと考える。

臨床倫理の普及と啓発について

臨床倫理プロジェクトの活動の一環として、全国各地で医療・ケア従事者のための臨床倫理セミナーを開催し、講義を行い事例検討を支援した。セミナー参加者はこの 2 年間で延べ約 5,000 名を数えた。

会田はすべてのセミナーにおいて、中核となる講義 (「臨床倫理入門編」、「事例検討法」など) や事例検討のファシリテーションに関わる支援を行い、また、繰り返しセミナーを行っている地域においては、アドバンスト・コースにおいて、「frailty」、「ACP」、「エンドオブライフ・ケア」のトピック講義を行った。

また、平成 30 年度および令和元年度にもファシリテーター養成講座を大阪と札幌で開催した。また、新たな臨床倫理検討シート 3 点セットの使用法を含む新たな講義科目も開発した。今後も、臨床倫理を一般の医療・介護従事者や市民が理解可能な言葉で表現し、個別症例の倫理問題に多職種協働で具体的に取り組み、現場の実践知をともに高めることを目指している。

臨床死生学の試みについて

当講座の《医療・介護従事者のための死生学》基礎コースにおいて、セミナーの企画・運営と臨床死生学関連の講義を担当し、臨床現場で働く人たちが死生についてどのように理解し、どのようにケアに活かしていくかの研鑽を支援する活動を展開した。

また、年間に10回開催している「臨床死生学・倫理学研究会」を企画・運営し、この分野において研究・実践活動に取り組む研究者や実践家との意見交換の機会を医療・介護従事者および一般市民に広く提供した。同研究会には毎回、80~150名程度が参加し、臨床現場の実態を踏まえて死生の問題に関して議論した。

今後も、現場で生きる臨床死生学の取り組みを継続し、社会のなかで活かす知の集積・活用を目指したい。

d 主要業績

(1) 著書

単著、会田薫子、『長寿時代の医療・ケア — エンドオブライフの論理と倫理』、筑摩書房、2019.7

(2) 論文

Ouchi Y, Shimizu T, Aita K, et al., 「Guidelines from the Japan Geriatrics Society for the decision-making processes in medical and long-term care for the elderly: Focusing on the use of artificial hydration and nutrition.」、『Geriatrics and Gerontology International』、Vol.18, pp.823-827, 2018.7

会田薫子、「ケアマネジャーのための死生学入門1 本人の意思を尊重した最期の支え方」、『ケアマネジャー』、2018.8月号、pp.70-77、2018.8

会田薫子、「認知症高齢者が食べられなくなったら」、『Medical Rehabilitation』、No.226、pp.69-74、2018.8

会田薫子、「ケアマネジャーのための死生学入門2 共同の意思決定とアドバンス・ケア・プランニング」、『ケアマネジャー』、2018.9月号、pp.72-79、2018.9

会田薫子、「臨床倫理学と死生学」、『老年社会科学』、Vol.40, No.3、pp.292-300、2018.10

会田薫子、「アドバンス・ケア・プランニング」、『Aging & Health』、2018年秋号、pp.18-21、2018.10

会田薫子、「死生学と歯科専門職」、『歯界展望』、2018.11月号、pp.1074-1075、2018.11

会田薫子、「アルツハイマー型認知症のエンドオブライフ・ケア—人工的水分・栄養補給法の問題を中心に」、『Dementia Japan (日本認知症学会誌)』、33、137-144頁、2019.4

会田薫子、「超高齢社会の医療選択に関わる意思決定支援」、『人間と医療』、9、49-62頁、2019.9

会田薫子、「実践！在宅救急 高齢者医療の考え方の変遷とアドバンス・ケア・プランニング」、『Modern Physician』、vol.39, no.10、980-984頁、2019.10

会田薫子、「その人らしい生き方を支えるための倫理的視点」、『臨床透析』、vol.35, no.11、1329-1336頁、2019.11

会田薫子、「ACPの倫理的側面に関する質疑応答—遠方の家族をもつ独居者を支える医療・介護現場から」、『Geriatric Medicine』、vol.57, no.12、1205-1208頁、2019.12

会田薫子、「人生100年 いつまで医師にかかるべきか」、『腎臓』、vol.42、38-41頁、2020.3

会田薫子、「Shared Decision Makingの意義」、『臨床透析』、vol.36, no.3、7-13頁、2020.3

(3) 解説

田代志門、会田薫子、清水哲郎、「倫理的検討」、『がん患者の治療抵抗性の苦痛と鎮静に関する基本的な考え方の手引き』、2018.9

会田薫子、「患者の意思決定支援に向けてACPをどのように普及・推進すべきか」、『医療白書2018年版』、pp.135-139、2018.9

会田薫子、「胃ろうの疾患別適応を考える その5：生命倫理編 医療者の職業倫理に基づき患者と真摯に向き合う勇気をもつ」、『栄養経営エキスパート』、2018.9/10月号、pp.79-81、2018.9

会田薫子、「さあ始めよう、人生会議」、『DVD』、2018.12

会田薫子、「アドバンス・ケア・プランニングへの取り組み方」、『日本慢性期医療協会誌』、No.121、pp.40-46、2019.2

会田薫子、「治療の選択にフレイルの知見を活かす—臨床倫理の視点から」、『認知症の緩和ケア』、189-196頁、2019.6

会田薫子、「高齢者の治療選択：フレイルの知見を臨床に活かす」、『絶対成功する 腎不全・PD診療 TRC 第二版』、127-131頁、2019.11

会田薫子、「『ACP推進に関する提言「事例集」の問題点』への回答」、『日本老年医学会雑誌』、vol.57, no.1、90頁、2020.1

(4) 学会発表

国内、招聘講演、会田薫子、「長寿時代のエンドオブライフ・ケア」、第23回日本口腔衛生学会学術集会認定医研修会、札幌市教育文化会館、2018.5.18

- 国内、招聘講演、会田薫子、「救急医療の死生学—脳死の二重基準の意味と意義」、第32回日本小児救急医学会学術集会第8回脳死患者への対応セミナー、つくば国際会議場、2018.6.3
- 国際、Kaoruko Aita、「End-of-life care for the aged in Japan: withholding and withdrawal of artificial hydration and nutrition」、The 60th annual meeting of the Japan Geriatrics Society, Japan-Korea-Taiwan Joint Symposium on End-of-life care、国立京都国際会館、2018.6.14
- 国内、招聘講演、会田薫子、「透析医学における臨床研究倫理」、第63回日本透析医学会学術集会、神戸ポートピアホテル、2018.6.30
- 国内、招聘講演、会田薫子、「認知症者の終末期医療をどう考えるか」、第37回日本認知症学会学術集会、札幌市（ロイトン札幌）、2018.10.14
- 国内、招聘講演、会田薫子、「ACPとフレイル—本人らしく生きて、生き終わることをサポートするために」、第21回日本在宅ホスピス協会全国大会 in 金沢、石川県音楽堂コンサートホール、2018.11.4
- 国際、招聘講演、AITA Kaoruko、「End-of-life care for the aged in Japan: withholding and withdrawal of artificial hydration and nutrition.」、The 62nd Congress of The Korean Geriatrics Society, Healthcare Innovation Park, Seoul National University Bundang Hospital, Bundang, Gyeonggido, South Korea、2018.11.11
- 国内、会田薫子、「フレイルとACP—不要なCPRを避けるための臨床倫理」、第46回日本救急医学会学術集会、パシフィコ横浜、2018.11.21
- 国内、招聘講演、会田薫子、「高齢者医療とエンドオブライフ・ケアの倫理」、第31回日本総合病院精神医学会総会、2018.11.30
- 国内、招聘講演、会田薫子、「フレイル評価を組み込んだACPによって不要なCPRを回避する」、第22回日本臨床救急医学会学術集会、和歌山（アバローム紀ノ国）、2019.6.1
- 国内、招聘講演、会田薫子、「延命医療への対応—本人らしさを支える意思決定支援」、第27回東京都臨床工学会学術集会、東京（バルサール新宿グランドコンファレンスセンター）、2019.6.2
- 国内、会田薫子、「「ACP推進に関する提言」の目標と定義について」、第61回日本老年医学会学術集会、仙台（仙台国際センター会議棟）、2019.6.6
- 国内、招聘講演、会田薫子、「長寿時代のエンドオブライフ・ケア」、第104回岡山透析懇話会、独立行政法人国立病院機構岡山医療センター、2019.6.15
- 国内、招聘講演、会田薫子、「救急医療の死生学—脳死の二重基準の意味と意義」、日本小児救急医学会「第9回小児患者における脳死患者の対応セミナー」、大宮（大宮ソニックシティ市民ホール）、2019.6.21
- 国内、招聘講演、会田薫子、「小児の脳死下臓器提供：臨床倫理の視点から」、パネルディスカッション3「小児の脳死下臓器提供を考える」、第33回日本小児救急医学会学術集会、大宮（大宮ソニックシティ小ホール）、2019.6.22
- 国内、招聘講演、会田薫子、「透析療法におけるエンドオブライフ・ケア—臨床倫理の視点から」、第64回日本透析医学会学術集会、パシフィコ横浜国立大ホール、2019.6.29
- 国内、招聘講演、会田薫子、「医療者が理解すべき死生観—臨床死生学の役割」、第27回日本乳癌学会総会、新宿NSビル、2019.7.11
- 国内、会田薫子、「在宅で生き終わるといふこと」、第3回日本在宅救急医学会学術集会、日本医科大学武蔵境校舎講堂、2019.9.7
- 国内、招聘講演、会田薫子、「医療倫理」、第47回日本救急医学会学術集会、東京国際フォーラム、2019.10.3
- 国内、招聘講演、会田薫子、「人生の最終段階における医療とケア—ACPにフレイルの知見を活かす」、第38回日本認知症学会学術集会、京王プラザホテル、2019.11.9
- 国内、招聘講演、会田薫子、「ACP—患者さんの意思を尊重するために」、第22回日本腎不全看護学会学術集会、ロイトン札幌、2019.11.10
- 国内、会田薫子、「事例検討法」、第31回日本生命倫理学会年次大会、東北大学川内キャンパス、2019.12.7
- 国内、会田薫子、「高齢患者の透析療法におけるフレイル評価の重要性—臨床倫理的に適切な意思決定支援のために」、第31回日本生命倫理学会年次大会、東北大学川内キャンパス、2019.12.8
- (5) 啓蒙
会田薫子、「東大教師が新入生にすすめる本」、『UP』、2019.4月号、pp.2-3、2019.4
- (6) 研究報告書
会田薫子、「「周死期」の倫理的課題等に関する探索的研究第二報」、2019.10
- (7) 予稿・会議録
国際会議、会田薫子、「コメント」、国際シンポジウム 東アジアの死生学、東京大学文学部三番大教室、2019.11.24

『死生学・応用倫理研究』、Vol.24、pp.106-110

(8) 監修

清水哲郎・会田薫子、『子宮内膜症で悩んでいるあなたへ 意思決定プロセスノート』、医学と看護社、2018.4
会田薫子、『エンドオブライフ・ケア』、一般社団法人日本老年医学会発行、メジカルビュー社発売、2019.6

(9) 会議主催 (チェア他)

国内、「医療・介護従事者のための死生学 2018 夏季セミナー」、チェア、東京大学法文 2 号館一番・二番大教室、2018.8.19

国内、「第30回日本生命倫理学会大会」、公募シンポジウムVI「人生の最終段階における医療とケアの意思決定支援」、京都府立医科大学京都学・歴史館ホール、2018.12.9

国内、「非がん疾患の緩和ケアと ACP の役割—よりよい高齢者医療とケアを目指して」、チェア、東京大学伊藤謝恩ホール、2019.3.24

(10) 総説・総合報告

会田薫子、日本老年医学会「ACP 推進に関する提言」、『日本老年医学会誌』、56(4)、411-416 頁、2019.10

会田薫子、「長寿時代の医療・ケア」、『シノドス』、カテゴリ「社会」、2020.2

(11) マスコミ

「救急拠点 延命中止 7 割 終末期の患者」、『毎日新聞』朝刊 1 面、2018.5.31

「親の看取り方特集：「何でもしてくれ」は愛情ではない」、『東洋経済』、2018.8.4

「最期は蘇生望まないが・・・119 番」、『朝日新聞』朝刊 34 面、2018.9.6

「死に近づいた人生を生き切るのに必要な医療とは?」、東京大学広報誌『淡青』、2018.9.10

「親の看取り」、「ニュースしぶ 5 時」、NHK、2018.9.27

「NHK スペシャル 人生 100 年時代を生きる 第 2 回『命の終わりと向き合うとき』」、NHK、2018.11.18

「公立福生病院における透析中止について」、『News7』、NHK、2019.3.8

「透析中止 学会が調査委」、『読売新聞』朝刊 38 面、2019.3.8

「透析中止提示 患者死亡」、『静岡新聞』朝刊 31 面、2019.3.8

「透析しない選択肢」も意思決定支援に必要」、『日経メディカル』、2019.3.12

「透析中止 手続き軽視 「患者と考える治療」主流」、『毎日新聞』朝刊、2019.3.18

「老年医学会 「適切な ACP 推進」を提言」、『医療維新 m3.com』、2019.6.10

「日本老年医学会 「ACP 推進に関する提言」を発表」、『日経メディカル』、2019.6.19

「問答有用 750 終末期医療を支える会田薫子」、『週間エコノミスト』、p44-47、毎日新聞社、2019.7.9

「人工透析に新たな提言—終末期を迎える前に考えるべき時代」、NHK ラジオ「三宅民夫のマイあさ!」、2020.2.4

(12) 教科書

『老年医学 上』、会田薫子、共著、執筆、日本臨床社、2018

『生涯教育シリーズ 95 認知症トータルケア』、会田薫子、共著、執筆、日本医師会、2018

『現代家族を読み解く 12 章』、会田薫子、共著、執筆、丸善出版、2018

『標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野 老年学第 5 版』、会田薫子、共著、執筆、医学書院、2019

『生命倫理と医療倫理 第 4 版』、会田薫子、共著、執筆、金芳堂、2019

(13) 共同研究・受託研究

共同研究、会田薫子、日本学術振興会科学研究費 基盤研究 (A)、研究代表者：岩手保健医療大学 清水哲郎、「臨床倫理システムの哲学的展開と超高齢社会への貢献および医療者養成課程への組み込み」、平成 30 年度～令和 3 年度

共同研究、会田薫子、日本学術振興会科学研究費 基盤研究 (B)、研究代表者：北海道医療大学 山田律子、「認知症高齢者の摂食嚥下障害に対する原因疾患別予防プログラムの多職種共同開発」、平成 30 年度～令和 2 年度

共同研究、会田薫子、日本学術振興会科学研究費 基盤研究 (C)、研究代表者：東京慈恵会医科大学 高橋衣、「小児看護：子どもの権利擁護実践能力に関する教育プログラムの開発と検証」、平成 30 年度～令和 2 年度

受託研究、会田薫子、AMED (国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)、研究代表者：川崎医科大学 柏原直樹、研究課題名：長寿・障害総合研究事業 長寿科学研究開発事業「高齢腎不全患者に対する腎代替療法の開始/見合わせの意思決定プロセスと最適な緩和医療・ケアの構築」、令和元年度～令和 3 年度

受託研究、会田薫子、AMED (国立研究開発法人 日本医療研究開発機構)、研究代表者：国立長寿医療研究センター 三浦久幸、研究課題名：長寿・障害総合研究事業 長寿科学研究開発事業「呼吸不全に対する在宅緩和医療の指針に関する研究」、令和元年度～令和 3 年度

3. 主な社会活動

(1) 他機関での講義

- 特別講演、菊池養生園健保組合、「長寿時代の医療とケア—自分らしい生き終わり方のために」、2018.4
- その他、自由民主党政務調査会「終末期医療に関する検討プロジェクト・チーム」、「高齢者ケアの意思決定プロセスに関するガイドライン」、2018.4
- 非常勤講師、東京大学高齢社会総合研究機構、「科目名「高齢社会総合研究学特論Ⅲ」における「長寿時代のエンドオブライフ・ケア：臨床倫理の視点から」、2018.4
- 特別講演、岡崎市民病院、「高齢者医療における意思決定プロセスのあり方」、2018.5
- 特別講演、東京慈恵会医科大学、「臨床倫理」、2018.5
- 非常勤講師、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科、「長寿時代の臨床死生学」、2018.5
- セミナー、北海道臨床倫理研究会、「簡易版臨床倫理検討シートとカンファレンス用ワークシートの使い方」、2018.5
- セミナー、北海道臨床倫理研究会、「臨床倫理エッセンシャルズ 入門編、カンファレンス用ワークシートの具体的な検討」、2018.5
- 特別講演、独立行政法人地域医療推進機構(JCHO)東京高輪病院、「臨床倫理 理論と事例検討法」、2018.5
- 特別講演、埼玉県医療社会事業協会、「アドバンス・ケア・プランニング—高齢者の意思決定を支援する」、2018.6
- 特別講演、あけぼの会、「人生の最終段階の医療について考える」、2018.6
- 特別講演、医療法人浩仁会南塚病院、「人生の最終段階における医療とケアの意思決定支援」、2018.6
- 特別講演、戸田中央リハビリテーション病院、「人生の最終段階における医療とケア：高齢者が自分らしく生き抜くことを支える」、2018.6
- セミナー、大阪府看護協会、「看護倫理」、2018.6
- 特別講演、一般財団法人 日本尊厳死協会、「鎮静の倫理」、2018.6
- 特別講演、関西医科大学香里病院、「高齢者のためのよりよい意思決定支援—フレイルの知見を活かす」、2018.6
- 特別講演、日本老年医学会・公益社団法人全国老人保健施設協会、「老人保健施設における終末期医療」、2018.7
- 非常勤講師、東京大学高齢社会総合研究機構、科目名「高齢社会総合研究学概論Ⅰ」における「人生の最終段階のケア」、2018.7
- 非常勤講師、慶応義塾大学 GIC Center、「“Dying and Death: End-of-life care for elderly adults in Japan”」、2018.7
- セミナー、東北大学医学部、「臨床倫理エッセンシャルズ」、「簡易版臨床倫理検討シートとカンファレンス用ワークシートの使い方」、2018.7
- 特別講演、老人の専門医療を考える会、「Advance Care Planning—高齢者の意思決定を支援する」、2018.7
- 特別講演、公益財団法人東京都保健医療公社多摩南部地域病院、「高齢者医療における意思決定支援—フレイルの知見を臨床に活かす」、2018.7
- セミナー、岩手臨床倫理研究会、「臨床倫理エッセンシャルズ 入門編」、2018.7
- 特別講演、公益社団法人 神奈川県看護協会、「エンドオブライフ・ケアを考える」、2018.7
- 特別講演、埼玉県、「人生の最終段階における医療とケア」、2018.7
- セミナー、関西臨床倫理研究会、「臨床倫理入門」、2018.7
- 特別講演、医療法人社団五色会 こころの医療センター五色台、「高齢者のエンドオブライフ・ケアを考える—人工的水分・栄養補給の問題を中心に」、2018.7
- 特別講演、公益財団法人 脳血管研究所附属美原記念病院、「終末期医療—アドバンス・ケア・プランニングから考える」、2018.7
- セミナー、公益社団法人 日本医療社会福祉協会、「臨床倫理の基礎：臨床倫理にもとづく相談支援、「臨床倫理検討シート」による要点の整理と考え方」、2018.7
- 特別講演、岐阜県総合医療センター、「現場で活かす臨床倫理—患者中心の医療のために」、2018.8
- セミナー、日本老年医学会、「高齢者のエンドオブライフ・ケア」、2018.8
- セミナー、北・北海道臨床倫理研究会、「臨床倫理エッセンシャルズ 事例検討の進め方」、2018.8
- セミナー、東京大学高齢社会総合研究機構、「フレイルについて考えましょう!」、2018.8
- 非常勤講師、岡山大学歯学部、「高齢者の意思決定支援—フレイルの知見を臨床に活かす」、「高齢者のエンドオブライフ・ケア — 人工的水分・栄養補給法の問題を中心に」、2018.8
- セミナー、国立病院機構中国四国グループ、「臨床倫理の基礎—看護倫理を現場で生かすために」、「事例検討の進め方」、2018.8

セミナー、諏訪中央病院および諏訪赤十字病院、「臨床倫理エッセンシャルズ 入門編」、「臨床倫理：事例検討の進め方」、2018.9

セミナー、金沢大学医学部附属病院、「臨床倫理エッセンシャルズ 入門編」、「臨床倫理：事例検討の進め方」、2018.9

セミナー、愛媛地区臨床倫理研究会、「臨床倫理エッセンシャルズ 入門編」、「臨床倫理：新ワークシートの使い方」、2018.9

セミナー、関西臨床倫理研究会、「ACP—自二世の最終段階における意思決定を支援する」、「事例検討の進め方—改訂版ワークシートの使い方」、2018.10

特別講演、小樽終末期医療を考える会、「私の人生の集大成を考える—エンディングノートを超えて」、2018.10

セミナー、岩手県看護協会、「看護倫理」、2018.10

特別講演、埼玉医科大学病院、「エンドオブライフ・ケアをどう考えるか」、2018.10

非常勤講師、岩手医科大学、「長寿時代のエンドオブライフ・ケア」、2018.10

特別講演、山口県介護支援専門員協会、「看取りについて考える—チームアプローチでのケアマネの役割」、2018.10

特別講演、公益社団法人 日本医療社会福祉協会、「アドバンス・ケア・プランニング—意思決定の支援」、2018.10

セミナー、佐久総合病院佐久医療センター、「臨床倫理 入門編」、2018.11

特別講演、松江看護キャリア支援センター、「臨床倫理、アドバンス・ケア・プランニング—人生の最終段階における意思決定支援、食べられなくなったときの意思決定支援」、2018.11

特別講演、金沢医科大学病院、「救急医療における死生学」、2018.11

特別講演、栃木県保健福祉部、「高齢者のエンドオブライフ・ケア—人工的水分・栄養補給法の問題を中心に」、2018.11

特別講演、公益社団法人 日本医療社会福祉協会、「アドバンス・ケア・プランニング—意思決定の支援」、2018.11

特別講演、石川県介護支援専門員協会河北支部、「高齢者のための意思決定支援」、2018.11

特別講演、川口医療福祉多職種連携勉強会、「延命医療の意思決定」、2018.11

特別講演、塩野義製薬株式会社、「ACP—人生の最終段階における意思決定支援」、2018.11

特別講演、関西メディカル病院、「超高齢社会を生きる アドバンス・ケア・プランニング」、2018.12

特別講演、日本財団在宅看護センター、「アドバンス・ケア・プランニング—人生の最終段階における意思決定支援、高齢者のエンドオブライフ・ケア—人工的水分・栄養補給法の問題を中心に」、2018.12

非常勤講師、東京大学朝日講座、「臨床現場の未来：人生の物語りに沿ったエンドオブライフ・ケアの意思決定」、2018.12

セミナー、関西臨床倫理セミナー実行委員会、「臨床倫理 事例検討の進め方」、2018.12

特別講演、愛知県看護管理研究会、「人生の最終段階における医療・ケアの在り方—看護師の意思決定支援」、2018.12

セミナー、関西臨床倫理研究会、「グループワークにおけるファシリテーション」、2019.1

セミナー、関西臨床倫理研究会、「臨床倫理エッセンシャルズ入門編」、2019.1

特別講演、東京保険医協会、「人生の最終段階の医療とケア—ガイドラインの意味」、2019.1

セミナー、大阪府看護協会、「看護倫理」、2019.1

特別講演、千葉県四街道市地域包括支援センター・市立公民館、「延命医療—その時あなたはどのように考えますか?」、2019.1

特別講演、大阪府公立病院協議会看護部長会、「臨床における倫理課題とアドバンス・ケア・プランニング」、2019.1

セミナー、諏訪中央病院、「アドバンス・ケア・プランニング—意思決定を支援する」、2019.1

その他、埼玉県医師会・埼玉県、「さあ始めよう、人生会議」、2019.1

特別講演、山口県訪問看護ステーション協議会、「長寿時代の意思決定支援—フレイルの知見をACPに組み込む」、2019.1

セミナー、大阪府看護協会、「看護倫理」、2019.1

特別講演、南和歌山医療センター、「エンドオブライフ・ケアの意思決定のあり方」、2019.2

特別講演、横浜市金沢区、「エンドオブライフ・ケアを考える—人生の最終段階における医療とケアの意思決定支援」、2019.2

特別講演、埼玉県大宮医師会、「人生の最終段階における医療とケア—アドバンス・ケア・プランニングとは何か」、2019.2

特別講演、川崎市看護協会、「エンドオブライフ・ケアを考える」、2019.2

その他、岡山大学医歯薬総合研究科、「臨床死生学と歯科医学」、2019.2

特別講演、獨協医科大学、「人生の最終段階における医療とケア—倫理的な意思決定支援のあり方」、2019.2

特別講演、公立昭和病院、「長寿時代の医療とケアを考える—ACPにフレイルの知見を活かす」、2019.2

特別講演、函南町地域包括支援センター、「「人生の最終段階」を自分らしく暮らす」、2019.3

特別講演、社会医療法人石川記念会、「アドバンス・ケア・プランニング—長寿時代の意思決定支援」、2019.3

特別講演、社会福祉法人聖隷福祉事業団、「人生の最終段階における医療・ケアの意思決定支援」、2019.3

特別講演、尼崎市医師会、「人生の最終段階において、自分の意思を周りにどのように伝えますか?」、2019.3

特別講演、東京女子医科大学看護学部認定看護師教育センター透析看護分野、「透析療法を受ける高齢者の治療選択と意思決定」、2019.3

セミナー、久留米大学病院、「アドバンス・ケア・プランニング、臨床倫理：事例検討法」、2019.3

特別講演、栃木県西健康福祉センター、「人生の最終段階における意思決定支援—医療・介護者のための ACP」、2019.3

特別講演、大和ケアマネージャー連絡協議会、「アドバンス・ケア・プランニングとは何か」、2019.3

特別講演、山形県村山総合支庁保健福祉環境部、「超高齢社会の医療選択に関わる意思決定支援」、2019.3

特別講演、一般社団法人 山口県病院協会、「長寿時代のエンドオブライフ・ケア—延命医療について考える」、2019.3

特別講演、秋田県医師会、「臨床倫理とは何か—共同意思決定と ACP」、2019.4

特別講演、山梨県・山梨県看護協会、「ACP について—本人らしく生きて生き終わることをサポートするために看護職に求められているもの」、2019.5

特別講演、東京慈恵会医科大学、「臨床倫理 入門編」、2019.5

非常勤講師、長崎大学歯学部、「長寿時代の臨床死生学」、2019.5

セミナー、北海道臨床倫理研究会、「臨床倫理：改訂版事例検討法」、2019.5

非常勤講師、東京大学高齢社会総合研究機構、科目名「高齢社会総合研究学特論Ⅲ」における「長寿時代のエンドオブライフ・ケア：臨床倫理の視点から」、2019.5

特別講演、島根県高齢者ケア施設看護責任者連絡協議会、「食べられなくなったときの意思決定支援」、2019.5

特別講演、一般財団法人竹田健康財団竹田総合病院、「多職種で行う意思決定支援—延命医療について考える」、2019.5

セミナー、独立行政法人地域医療機能推進機構東京高輪病院、「臨床倫理：事例検討法」、2019.6

特別講演、神奈川県看護協会川崎支部、「エンドオブライフ・ケアを考える」、2019.6

特別講演、NPO 法人 高齢社会をよくする女性の会、「人生の最終段階における医療とケア—ACP とは何か」、2019.7

特別講演、NPO 法人 かわさき市民アカデミー、「人生の最終段階の医療について考える」、2019.7

セミナー、関西臨床倫理研究会、「臨床倫理入門編」、2019.7

セミナー、仙台臨床倫理セミナー実行委員会、「臨床倫理 事例検討の進め方」、2019.7

セミナー、岩手臨床倫理研究会、「臨床倫理 事例検討の進め方、ACP の最近の動向—臨床倫理的意義」、2019.7

セミナー、大阪府看護協会、「看護倫理」、2019.7

特別講演、大阪ベイエリア緩和ケア研究会、「人生の最終段階における医療とケアの意思決定支援—ACP にフレイルの知見を活かす」、2019.7

セミナー、北・北海道臨床倫理研究会、「臨床倫理 入門編」、2019.7

特別講演、公立陶生病院、「今から学ぶ エンドオブライフ・ケア」、2019.7

特別講演、公益財団法人 集団力学研究所、「人生の最終段階における医療とケア—高齢者が最期まで本人らしく生きることを支援するために」、2019.7

セミナー、公益社団法人 日本医療社会福祉協会、「アドバンス・ケア・プランニング—臨床倫理にもとづく意思決定支援」、「臨床倫理検討シートによる事例の要点の整理と考え方」、2019.7

特別講演、千葉大学病院、「ACP—エンドオブライフの意思決定支援」、2019.8

セミナー、日本老年医学会・国立長寿医療研究センター、「高齢者のエンドオブライフ・ケア」、2019.8

特別講演、公益財団法人 杉浦記念財団、「非がん疾患を含めた包括的なエンドオブライフについて」、2019.8~

セミナー、秋田臨床倫理セミナー実行委員会、「臨床倫理エッセンシャルズ 事例検討の進め方」、2019.8

特別講演、大阪府看護協会、「人生の最終段階における医療とケアのあり方を考える—ACP とは何か」、2019.8

特別講演、市立豊中病院、「臨床倫理 入門編」、2019.8

非常勤講師、岡山大学歯学部、「アドバンス・ケア・プランニングにフレイルの知見を活かす—よりよい意思決定支援のために、高齢者のエンドオブライフ・ケア—人工的水分・栄養補給法の問題を中心に」、2019.8

特別講演、宮崎大学医学部、「超高齢社会の医療選択に関わる意思決定支援」、2019.9

セミナー、大阪府看護協会、「看護倫理」、2019.9

特別講演、第 27 回福島県高齢者大集会実行委員会、「人生の最終段階における医療について考える」、2019.9

セミナー、独立行政法人国立病院機構中国四国グループ、「臨床倫理の基礎—看護倫理を現場で活かすために、事例検討の進め方」、2019.9

特別講演、愛媛大学大学院医学系研究科、「人生の最終段階における医療とケア—アドバンス・ケア・プランニングとは何か」、2019.9

セミナー、北陸地区臨床倫理事例研究会、「臨床倫理：事例検討の進め方、ACPの最近の動向—臨床倫理的意義」、2019.9

特別講演、小山市近郊地域医療連携協議会、「人生の最終段階における医療とケア—意思決定を支援する」、2019.9

特別講演、ウェル・リビングを考える会、「心肺蘇生法—人工呼吸器つけますか?」、2019.9

特別講演、福島県医療ソーシャルワーカー協会、「意思決定支援を考える」、2019.9

特別講演、まち・ひと・くらし研究会、「人生の最終段階の医療とケア—人生会議（ACP）とフレイルについて考える」、2019.9

非常勤講師、早稲田大学政治経済学術院、「医療とメディア」、2019.9～2020.3

セミナー、諏訪赤十字病院、「ACP—エンドオブライフの意思決定支援、臨床倫理エッセンシャルズ：事例検討の進め方」、2019.10

セミナー、全国老人保健施設協会、「老人保健施設における終末期医療—エンドオブライフの考え方」、2019.10

セミナー、大阪府看護協会、「看護倫理」、2019.10

非常勤講師、岩手医科大学、「長寿時代のエンドオブライフ・ケア」、2019.10

セミナー、国際医療リスクマネジメント学会、「臨床死生学と臨床倫理の基本」、2019.10

セミナー、公益社団法人 日本医療社会福祉協会、「アドバンス・ケア・プランニング—意思決定の支援」、2019.10

特別講演、済生会川口総合病院、「アドバンス・ケア・プランニング—高齢者の意思決定を支援する」、2019.10

セミナー、公益社団法人福島県看護協会、「臨床倫理—意思決定支援とは、アドバンス・ケア・プランニングとエンドオブライフ・ケア」、2019.10

セミナー、関西臨床倫理研究会、「臨床現場で活かす死生学、事例検討の進め方—改訂版ワークシートの使い方」、2019.10

特別講演、宇部市地域緩和ケア研究会、「アドバンス・ケア・プランニングにフレイルの知見を活かす—高齢者への意思決定支援」、2019.11

特別講演、足柄上地区在宅医療・介護連携支援センター、足柄上医師会、「家族とともに自ら考える最期のとき—食べられなくなったら、どうしますか?」、2019.11

特別講演、MSD株式会社、「人生の最終段階における医療とケア」、2019.11

セミナー、愛媛地区臨床倫理研究会、「臨床倫理エッセンシャルズ入門編、「カンファレンス用ワークシート」と「選択肢の益と害のアセスメント・サポート・ツール」を使用した事例検討」、2019.11

特別講演、島根県医師会、「人生の最終段階における医療とケア—ACP推進に関する提言」、2019.11

セミナー、佐久総合病院、「臨床倫理 事例検討の進め方」、2019.11

セミナー、公益社団法人日本医療社会福祉協会、「アドバンス・ケア・プランニング—意思決定の支援」、2019.11

セミナー、NTT 東日本関東病院、「臨床倫理、事例検討法、グループ・ワーク指導」、2019.11

特別講演、茅ヶ崎市、「自立した長寿社会をめざし、明るく生きるために—人生の最終段階における医療とケアを考える」、2019.11

特別講演、済生会滋賀県病院、「人生の最終段階における医療とケア—フレイルの知見を臨床に活かす」、2019.12

セミナー、関西臨床倫理研究会、「事例検討の進め方」、2019.12

特別講演、公益財団法人 笹川保健財団、「ACP—人生の最終段階における意思決定支援、高齢者のエンドオブライフ・ケア —人工的水分・栄養補給法の問題を中心に」、2019.12

特別講演、山梨県立中央病院、「臨床倫理—人生の最終段階における意思決定支援」、2019.12

特別講演、横浜市立みなと赤十字病院、「延命医療を終了するという—臨床倫理的に適切な意思決定支援とは」、2019.12

セミナー、関西臨床倫理研究会、「事例検討法アドバンスト編」、2020.1

セミナー、関西臨床倫理研究会、「臨床倫理 事例検討の進め方」、2020.1

特別講演、小松市役所、「高齢者ケアと意思決定—人生の最終段階を支える文化の創成」、2020.1

特別講演、組合立諏訪中央病院、「ACPの考え方と実践」、2020.1

特別講演、朝霞地区医師会、「人生の最終段階における医療・ケア—意思決定プロセス・ガイドラインの意義」、2020.1

特別講演、高知県中芸広域連合、「人生の最終段階を本人らしく生きることを支援する—ACPと意思決定支援」、2020.2

特別講演、土浦三師会（土浦市医師会・歯科医師会・薬剤師会）合同研究会、「ACP—人生の最終段階における意思決定支援」、2020.2
特別講演、さいたま市与野医師会・中央区地域包括支援センター、「ACP—意思決定支援に関わる課題」、2020.2
特別講演、NPO あがつま医療アカデミー、「ACP—人生の最終段階における意思決定支援」、2020.2
セミナー、愛知県看護管理研究会、「臨床倫理：事例検討の進め方」、2020.2
セミナー、学校法人聖路加国際大学・聖路加国際病院、「臨床倫理 入門編、事例検討の進め方」、2020.2
非常勤講師、獨協医科大学地域共創看護教育センター、「人生の最終段階の医療とケア—倫理的な意思決定支援のあり方」、2020.2

(2) 学会

国内、日本生命倫理学会、理事、2014～現在
国内、日本医学哲学・倫理学会、理事、2018～現在
国内、日本在宅救急医学会、理事、2018～現在
国内、日本脳死・脳蘇生学会、理事、2017～現在
国内、日本老年医学会、監事、2017～現在
国内、日本救急医学会、臨床研究倫理・審査委員会、2019～現在、高齢者救急特別委員会、2019～現在
国内、日本透析医学会、倫理委員会、外部委員、2018～現在
国内、日本緩和医療学会、鎮静ガイドライン改定ワーキンググループ、2018～2019
国内、PEG・在宅医療学会、学術評議員、2017～現在

(3) 学外組織(学協会、省庁を除く)委員・役員

一般社団法人 日本専門医機構、外部評価委員会委員、2019、編集会議議員、2019～現在
公益社団法人 日本臓器移植ネットワーク、あっせん事例評価委員会委員、2018～2019
公益社団法人 日本看護協会、「看護者の倫理綱領」検討委員会委員、2018～現在
静岡県立静岡がんセンター、治験倫理審査委員会委員、2010～現在
特定非営利活動法人 生活介護ネットワーク、理事、2010～現在
特定非営利活動法人 Patients Doctors Network、理事、2007～現在